

令和八年盂蘭盆法要・施餓鬼会の御案内

拝啓

盂蘭盆は、冥土の旅を歩む亡者にとって、懐かしい我が家、家族の元へ戻ることが許される一年に一度の時。

古より「地獄の蓋が開く」と伝わるように、全ての亡者、動物たちが心待ちにしているお里帰りでございます。

御先祖様方、父母、祖父母、幼子、家族のように過ごした動物たちへの御供物は好物の品々に優しさを添えて、家内和睦と笑顔でお出迎えさせていただきますよう。

そして忘れてはならない戦没諸精霊への御回向。まさに戦時下にある国の悲惨さを目の当たりにする昨今です。

当たり前のように過ごす日常の礎となっているのは、数度にわたる戦争でお国の為、父母、兄弟姉妹の為、命を投げ出し守ってくださった、ありとあらゆる命あるものの犠牲の上にあることを、終戦記念日に今一度、心に刻み戦没諸精霊へ慰霊の一灯、迎え提灯、蓮灯り、御供物を手向けさせていただきますか。

十二日夕刻から点す迎え提灯は、

真伝不動明王寺への道標。

法要の後には、懐かしい愛しい家族の元へ。

そして、十五日には、送り火の蓮灯りと御供物を調え、冥土に戻られる亡者の方々を想いを込めてお見送りさせていただきます。

また、忘れ去られ、あるいは無縁となり回向を受けられない亡者、動物たちをそのままにすれば、やがて物の怪となりかねません。

優しさを手向け、長い時をかけその哀しみが癒えるように施しをさせていただく施餓鬼をいたします。

ここに盂蘭盆法要・施餓鬼会の御案内を申し上げます。

合掌

令和八年七月吉日

真伝不動明王寺